

株式会社テラプローブ 決算説明資料

2019年12月期

2019年12月期 業績説明

本資料では、増減率について、1,000%を超える場合や、
比較対象の一方もしくは両方がマイナスの場合、
原則として「-」と表示しています。

Copyright© 2020 Tera Probe, Inc. All Rights Reserved.

2019年12月期 業績サマリー

	CY2019 億円	CY2019 3Q	CY2019 4Q	QoQ 増減	QoQ %	CY2018 累計	CY2019 累計	YoY 増減	YoY %
売上高		43.8	46.5	2.8	6%	217.4	169.1	△ 48.3	△22%
営業損益		1.8	3.9	2.1	121%	16.7	△ 1.1	△ 17.8	-
	%	4.0%	8.3%	4.3pt	-	7.7%	△ 0.7%	△8.3pt	-
経常損益		1.0	3.0	2.0	204%	15.4	△ 3.9	△ 19.3	-
	%	2.2%	6.4%	4.1pt	-	7.1%	△ 2.3%	△9.4pt	-
特別利益		0.8	1.3	0.5	67%	27.0	8.0	△ 18.9	△70%
特別損失		△ 0.1	0.7	0.8	-	14.3	3.4	△ 10.8	△76%
税金等調整前純損益		1.8	3.6	1.7	96%	28.1	0.7	△ 27.4	△98%
親会社株主に帰属する 四半期純損益		0.7	1.5	0.8	127%	10.4	△ 2.4	△ 12.8	-
	US\$	107.58	108.18			111.76	109.29		
	NT\$	3.52	3.53			3.67	3.53		

○ 売上高： QoQ 2.8億円増（Logicの緩やかな持ち直し継続）

○ 営業損益、経常損益、純損益とも QoQ 増益

前四半期比

売上、利益とも増加、利益率も改善

	3Q	4Q
売上高	43.8億円	46.5億円
営業利益	1.8億円	3.9億円
経常利益	1.0億円	3.0億円

2019年12月期 業績サマリー

	CY2019	CY2019	QoQ		CY2018	CY2019	YoY		
	億円	3Q	4Q	増減	%	累計	累計	増減	%
売上高		43.8	46.5	2.8	6%	217.4	169.1	△ 48.3	△22%
営業損益		1.8	3.9	2.1	121%	16.7	△ 1.1	△ 17.8	-
	%	4.0%	8.3%	4.3pt	-	7.7%	△ 0.7%	△8.3pt	-
経常損益		1.0	3.0	2.0	204%	15.4	△ 3.9	△ 19.3	-
	%	2.2%	6.4%	4.1pt	-	7.1%	△ 2.3%	△9.4pt	-
特別利益		0.8	1.3	0.5	67%	27.0	8.0	△ 18.9	△70%
特別損失		△ 0.1	0.7	0.8	-	14.3	3.4	△ 10.8	△76%
税金等調整前純損益		1.8	3.6	1.7	96%	28.1	0.7	△ 27.4	△98%
親会社株主に帰属する 四半期純損益		0.7	1.5	0.8	127%	10.4	△ 2.4	△ 12.8	-
	US\$	107.58	108.18			111.76	109.29		
	NT\$	3.52	3.53			3.67	3.53		

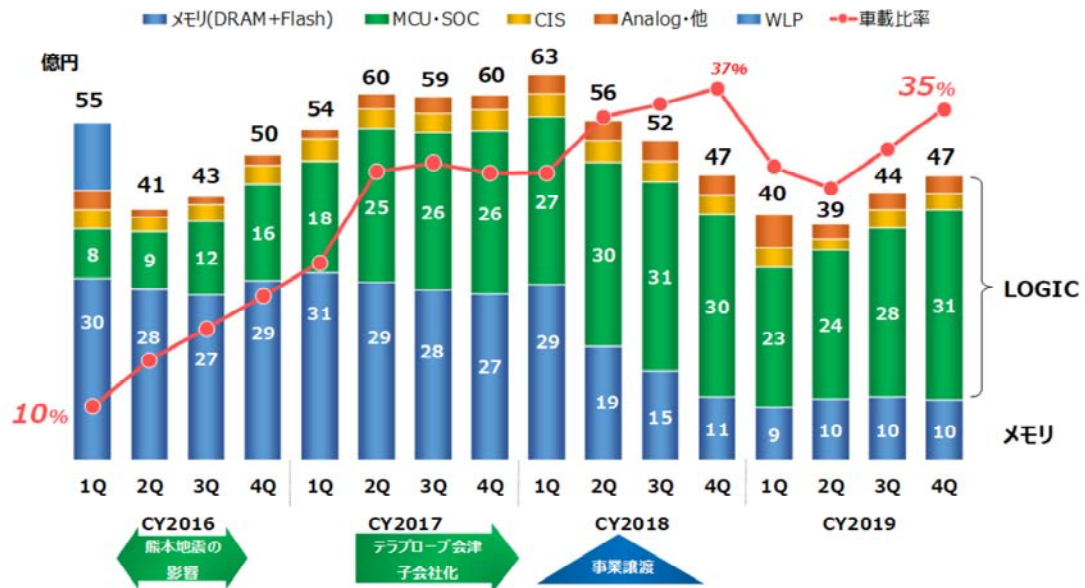
- 売上高：YoY 48.3億円減（事業譲渡やDRAM需要低迷、車載向けLogic生産調整などの影響）
- 営業損益、経常損益、純損益とも減益（事業所統合や効率化による費用減少も売上減少を補うには至らず）

（表は前ページに同じ）

前年比 売上、利益とも減少
費用削減ではカバーできず

	CY2018	CY2019
売上高	217.4億円	169.1億円
営業利益	16.7億円	△1.1億円
経常利益	15.4億円	△3.9億円

連結売上高推移（製品別）



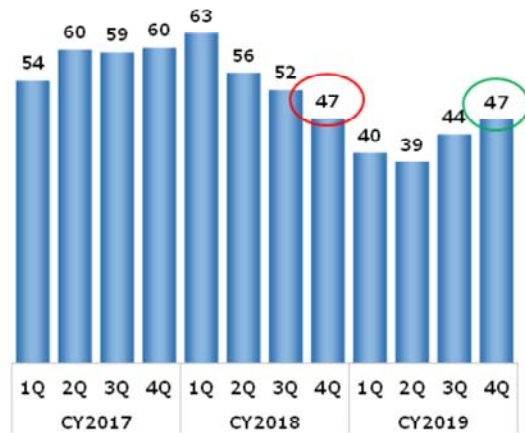
売上が回復

車載比率も35%と過去最高に近いレベルに回復

連結売上高・営業利益の推移

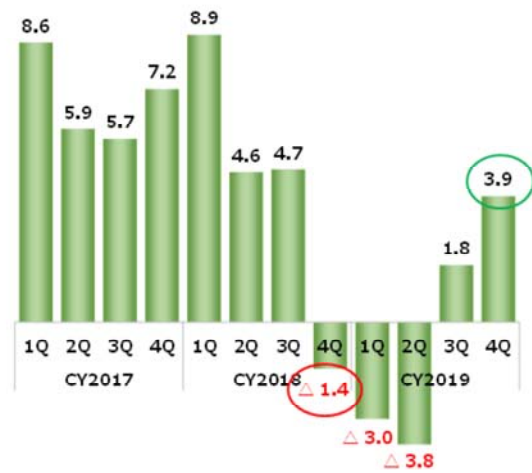
売上高

億円



営業利益

億円



	2018/4Q	2019/4Q	削減
製造原価	43 億円	38 億円	△ 5 億円
販管費	5.1 億円	4.4 億円	△ 0.6 億円

2018年4Q vs 2019年4Q

売上規模は同じ(47億円)だが2019年は黒字転換(△1.4億円 → 3.9億円)
費用削減の効果、更に筋肉質な経営体質へ

2019年12月期 キャッシュフロー 財政状態

キャッシュフロー

	CY2019 億円	CY2019 7~9月	CY2019 10~12月	QoQ 増減	%	CY2018	CY2019	YoY 増減	%
営業CF	11		24	13	122%	85	59	△ 27	△31%
投資CF	△ 23		3	26	-	△ 137	△ 48	90	-
FCF	△ 12		27	40	-	△ 52	11	63	-
財務CF	△ 10		△ 3	8	-	71	△ 32	△ 103	-

主要B/S項目

	CY2019 億円	CY2019 9月	CY2019 12月	QoQ 増減	%	CY2018 12月	CY2019 12月	YoY 増減	%
現預金	98		108	10	11%	143	108	△ 35	△24%
有形固定資産	375		387	12	3%	415	387	△ 28	△7%
総資産	542		569	27	5%	628	569	△ 59	△9%
有利子負債*	215		221	6	3%	244	221	△ 22	△9%
純資産	292		303	10	4%	309	303	△ 7	△2%

*有利子負債=借入金+リース債務

営業CF: 59億円の収入超で前年比27億円の減少

(主に税金等調整前の損益悪化)

投資CF: 48億円の支払超

前年比で支払額としては90億円の減少(設備投資の抑制)

フリーキャッシュフロー: 11億円のプラス

財務CF: 借入金の返済を進め、32億円の支払超

バランスシート主要項目に関して、

現預金: 前年比、35億円の減少(有利子負債の返済等)

有形固定資産: 前年比、28億円の減少(設備投資の抑制と減価償却の進展)

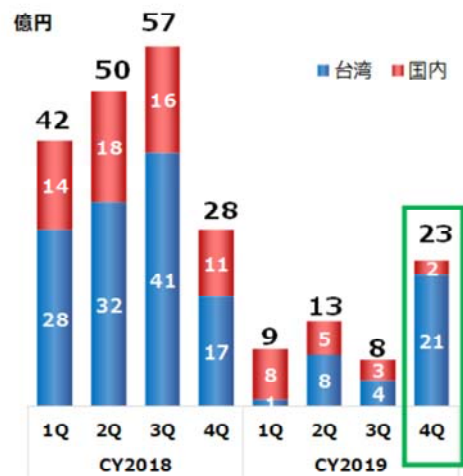
結果、総資産: 前年比59億円減少、569億円に

設備投資及び減価償却

設備投資

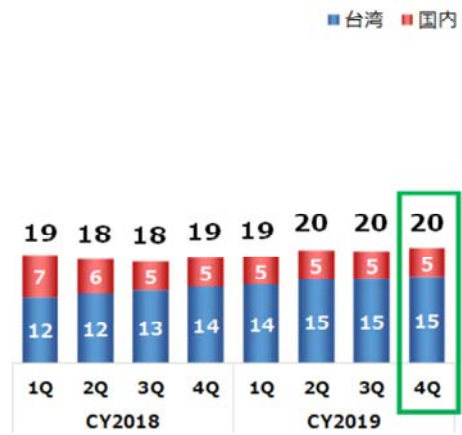
2019年実績 53億円

(YoY △123億円)



減価償却

億円



設備投資 前年比123億円 減
減価償却費は横ばい

2020年12月期 第1四半期 業績予想

本資料では、増減率について、1,000%を超える場合や、
比較対象の一方もしくは両方がマイナスの場合、
原則として「-」と表示しています。

Copyright© 2020 Tera Probe, Inc. All Rights Reserved.

2020年12月期 第1四半期 業績予想

	CY2019		CY2020		QoQ		CY2019		CY2020		YoY	
	億円	4Q	1Q		増減	%	1Q		1Q		増減	%
売上高		46.5	46.5		△ 0.0	△0%	40.3		46.5		6.2	16%
営業損益		3.9	2.5		△ 1.4	△35%	△ 3.0		2.5		5.5	-
	%	8.3%	5.4%		△2.9pt	-	△ 7.4%		5.4%		12.8pt	-
経常損益		3.0	2.0		△ 1.0	△32%	△ 3.6		2.0		5.6	-
	%	6.4%	4.3%		△2.1pt	-	△ 8.9%		4.3%		13.2pt	-
親会社株主に帰属する 四半期純損益		1.5	0.4		△ 1.1	△73%	△ 0.5		0.4		0.9	-

- 売上高：車載Logicの受託は堅調、DRAMや画像処理用Logicの受託減少 → QoQ 横ばい
- 営業損益、経常損益：需要増加に備えた先行投資等の影響 → QoQで減少

前四半期比

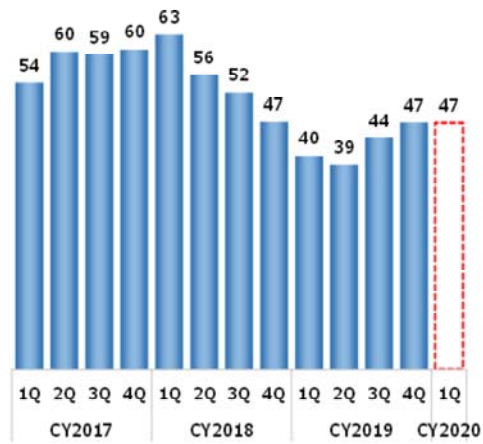
売上は横ばい

利益は減少（先行投資などの影響による費用増加）

売上高・営業利益の推移

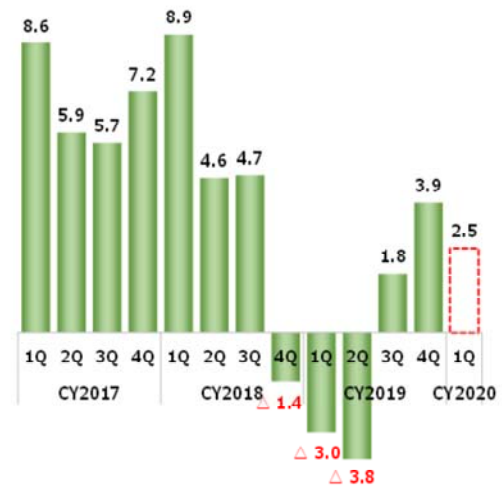
売上高

億円



営業利益

億円

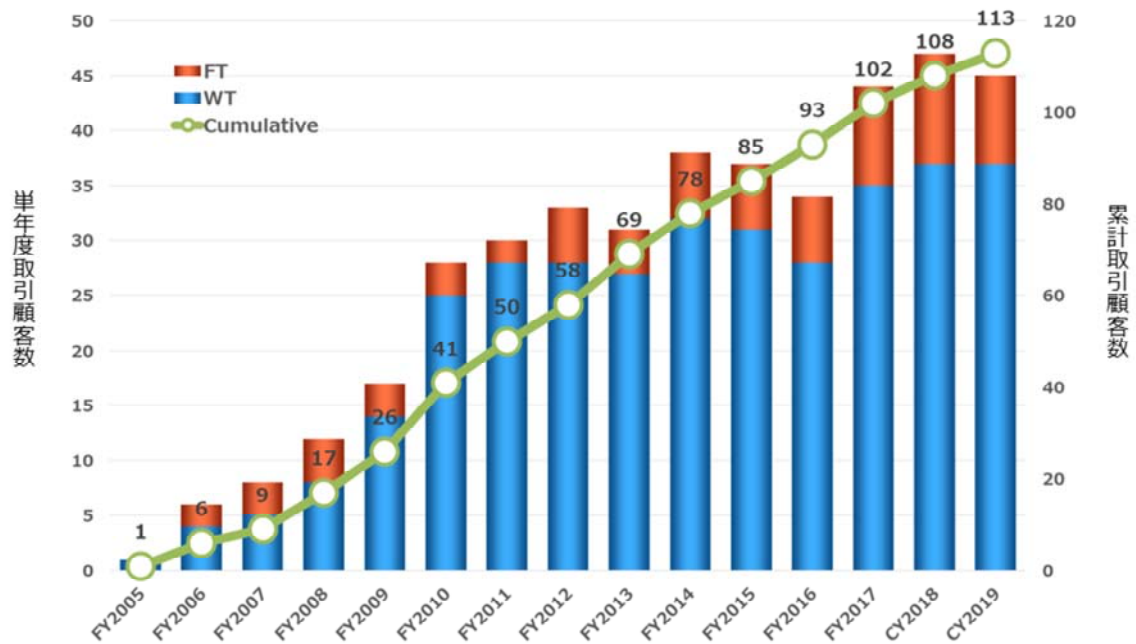


営業利益

前四半期比減少するが、黒字は確保

今後の当社の方向性について

顧客推移



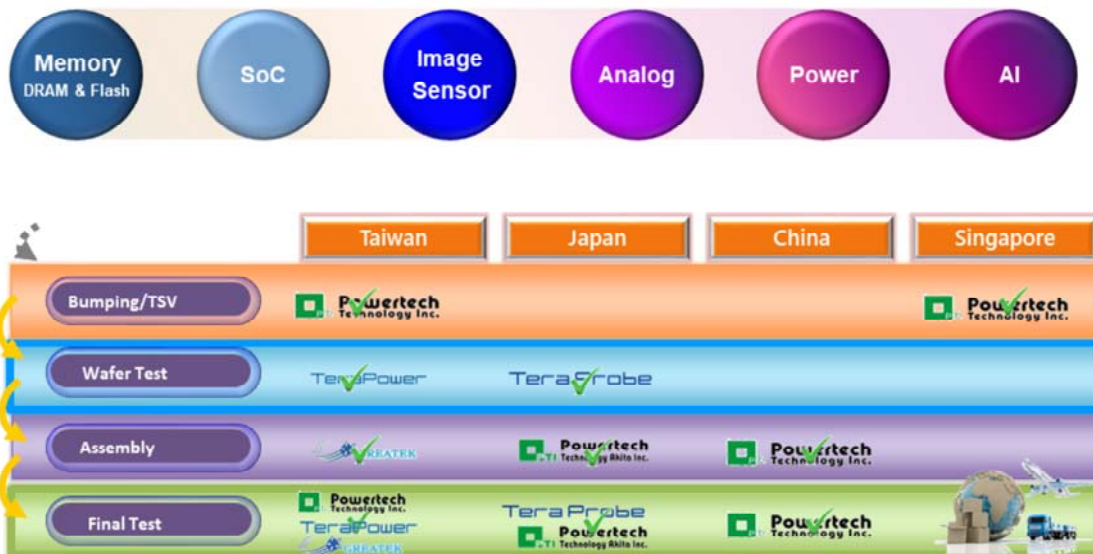
折れ線グラフ：累計取引顧客数

棒グラフ：単年度取引顧客数

- ・ 累計取引顧客 113社分のノウハウ蓄積
- ・ FT（ファイナルテスト）領域拡大継続
- ・ 年間40社以上の顧客との取引 ⇒ 各顧客の需要の波を吸収

テストサービスロードマップ

Memory, SoC, Sensor, Analog, AIまで幅広い半導体テストの対応



メモリからスタートし、多様な半導体製品分野のテスト実績を蓄積

過去のテストサービス以外の関連領域への挑戦と反省も踏まえ、
コアバリューのテスト領域（Wafer Test、Final Test）に集中
（関連領域は、PTIグループの基盤を活用し、顧客へ提供可能な体制を構築）

方針

① 売上拡大

- ・お客様のグローバル化サポート
- ・地の利を活かした日本-台湾サプライチェーン、ターンキー提案
- ・データベースソリューションの構築と提案

② 品質、技術レベルの更なる向上

- ・PTIグループとしてのR&D活動推進（WT/FT※）
- ・強み（量産ノウハウ、技術資産）を活かした開発活動推進

③ ミニマルオペレーションの継続

- ・必要かつ適正な投資水準の見極め
- ・技術的なコスト低減アプローチの実行

※ WT＝ウエハテスト FT＝ファイナルテスト

- ・台湾での半導体生産量・シェアは、引き続き拡大が見込まれる
- ・日台サプライチェーンやターンキーの提案などで顧客のグローバル化サポート
- ・PTIグループの中でテスト領域のR&Dについては当社が主導
- ・多種多様な顧客との取引の中で培われたノウハウを生かし顧客へ還元
- ・コスト削減による利益体質の維持

本資料における注意事項等

- 本資料は投資家の参考に資するよう、株式会社テラプローブ（以下、弊社）の現状を理解していただくために作成したものです。
- 本資料の一部には監査法人の監査やレビューの対象外の内容が含まれております。
- 本資料に記載された内容は、発表時点において一般に認識されている経済社会等の情勢及び弊社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 投資を行う際は、必ず弊社が開示している資料をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断において行っていただきますよう、お願い致します。

【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

株式会社テラプローブ
ファイナンスディビジョン
TEL (045) 476-5711
URL <http://www.teraprobe.com/>